

科目名	教育学		
担当教員	山口 アンナ真美		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	教育的関りに対する理解を深め、看護活動に活用できる能力を養う。		
到達目標	看護師になったときの患者指導や新人の指導ができるような教育学的な知見を養うことを目標とする。そのために、教育とは何か、我々はなぜ勉強をしなければならないのか、教えること・学ぶことは何かを歴史的・比較教育学的な観点から探究する。さらにグループワーク・調べ学習・発表などの活動を通して「情報や文章を正確に読み解き対話する力」、「新たな価値を見つけ生み出す感性」の育成を目指す。		
授業概要	現代社会はグローバル化と情報化が進むことにより、これまでない複雑な課題を抱えている。学校現場では、グローバル化する社会で生き抜く力及びAIやビックデータなどの先進技術を活用し、新たな価値の創出できる人材育成が求められている。つまりAIなどと共存していく時代を生きるためには「人間の強み」を発揮し、AIなどを使いこなせる力ー「情報や文章を正確に読み解き対話する力」、「新たな価値を見つけ生み出す感性、好奇心、探究力」ーの育成が求められている。 学校現場では教師のストレスや多忙、いじめ等が課題とされている。しかし、何が教育の真の課題であって、それを改善して現代社会が求める力を育成するためには、「教育とは何か」、「知識とはどのように発展するか」などの基礎的な概念をしっかりと持つ必要がある。 本授業ではまず、教育とは何か、学校は何のためにあるのか、我々はなぜ勉強をしなければならないのか、などの疑問を出発点とし、教育はどのような意味を持っているのかについて歴史的及び比較教育的な観点から探究する。こうすることで変化の激しい今後の社会を担う子どもや若者たちには、どのような学校、どのような教育が求められているかを考える。		
授業計画	内容		方法
	a.教育の基本原則と理念 第1: 教育と人間の成長と発達:教育の意味、役割と目的 第2: AI時代の学校の役割:一斉授業の発明から今日への変化 第3: ヨーロッパにおける教育理念と歴史 古代から中世 第4: ヨーロッパにおける教育理念と歴史 ルネサンスから現代 第5: 日本における教育理念と歴史 古代から江戸時代 第6: 日本における教育理念と歴史 明治時代から戦後 第7: 教育における最近の動向:21世紀の社会と学校 b.諸外国の教育事情:日本との共通点と相違点を考える 第8: 国際学力調査PISAから見てくる日本の教育課題 第9: 幼児教育:デンマーク→森の幼稚園 第10: 幼児教育:ドイツ→問われるエリート教育 第11: 小学校5年生:オランダ→個性とコミュニケーション力を重視する教育制度 第12: 小学校5年生:中国→教育熱の背景にある格差社会と競争 第13: いじめ:韓国→「ポイント制度」のいじめ対策 第14: いじめ:アメリカ→ルールと罰則 c.総括 第15: 最終レポートの作成		講義 (30時間)
使用テキスト	講義担当者作成によるプリント資料やDVDなどを使用する。		
参考書			
評価基準方法	40点 : 授業参加への態度, グループレポート, 各国についての発表 60点 : 最終個人レポート		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	社会学		
担当教員	魯彦		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	社会を形成する要素や社会現象について学び、社会的存在としての人間理解を深める能力を養う。		
到達目標	1. 社会学の概念、理論などの基礎知識を勉強し、社会についての見方を学ぶ。 2. 現代社会が抱える諸課題・諸問題への理解を深める。		
授業概要	現代社会に特徴的な社会現象を取り上げて紹介する。社会学の概念、理論を勉強しながら、広い視野で社会が抱える問題を考察していく。座学が中心だが、適宜グループワークで議論を行う。毎回ミニレポートを課す。		
授業計画	内容		方法
	1. 「社会学」の概観と社会調査 2. 人間の行為と相互行為を理解する 3. 家族：家族関係の変容 4. 教育：学歴社会と文化的再生産 5. 労働：非正規雇用と若者の就職問題 6. 階層・段階：格差と社会的排除 7. ジェンダー・セクシュアリティ：フェミニズムとLGBT 8. 政治・社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ 9. グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ 10. メディア・コミュニケーション：情報社会の光と影 11. 少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護 12. 社会福祉：医療と社会保障 13. 地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型 14. 宗教：宗教の社会貢献 15. 全体のまとめ		講義 グループワーク ミニレポート (30時間)
使用テキスト	使用しない。ただし毎回授業資料を配布する。		
参考書	櫻井義秀他編, 2014, 『アンビシャス社会学』北海道大学出版会。		
評価基準方法	毎回のミニレポート60%と期末レポート40%により評価する。		
備考・学生へのメッセージ	ぜひ社会学の勉強を通して、看護・臨床が抱える課題を考えてみてください。		

科目名	英語 I		
担当教員	萬 美保		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	患者との接触場面における基礎的なコミュニケーション能力を養成する。		
到達目標	1. 挨拶・呼びかけ・謝辞など一般的コミュニケーションに必要な表現が自然に使える。 2. 看護に必要な情報収集のための質問ができる。 3. 説明や指示のための叙述や丁寧な命令表現が使える。		
授業概要	小テスト 聴解・発音練習 表現・語彙の解説 運用練習		
授業計画	内容	方法	
	教科書の内容（＊印の章を授業で取り扱う予定） Lesson 1＊ In the Lobby of the Hospital Lesson 2＊ Registration (Patient Registration) Lesson 3 Checking the Registration Card Lesson 4＊ Finding the Way (Hospital Map) Lesson 5＊ Personal History Lesson 6＊ Daily Activities Lesson 7 More about Daily Activities Lesson 8＊ Asking about Symptoms (Human Body) Lesson 9 More about Symptoms Lesson 10＊ Checking Blood Pressure and Weight Lesson 11 Laboratory Specimens Lesson 12＊ Taking Medicines 確認テスト	語彙クイズを各章の最初に行う 音読を重視する ロールプレイ、ゲーム、グループワークなどの教室活動を行う	
使用テキスト	How Are You Feeling Today? やさしい看護英語（成美堂）		
参考書			
評価基準方法	授業参加の態度・積極性 10% 教室活動の目標達成度 20% 語彙クイズの結果 30% 確認テストの結果 40%		
備考・学生へのメッセージ	語彙力はコミュニケーションのための重要な道具です。 意味を伝えたいという熱意が差を生みます。 英語の音にできるだけ慣れましょう。		



科目名	英語 II		
担当教員	佐藤 有		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	英語の思考力を養う。 英会話力を高め、医療現場で必要とされる基礎的な英語を養う。		
到達目標	1. 情報を的確に理解したり、自分の考えを適切に伝えることができる。 2. 医療現場で想定される基礎的な英語を表現できる。		
授業概要	看護・医療に係わる英文資料に基づいた学習(「読み・書き・聴く・話す」)並びに現場で想定される基礎的な英語会話の学習をする。		
授業計画・内容	内 容	方 法	
	1. Strategy: Focusing on Important Tasks 看護学生生活を取り切るための方策:精読と会話 2. ①Essay Structure 1(英語エッセイの構造) ②リズムとイントネーション 3. ①Essay Structure 2(パラグラフ・リーディング) ②リズムとイントネーション 4. ① First Visit to a Hospital 受付で初診の患者さんを案内する:会話 ②音のメカニズム1 5. ①Practices in Nursing Communication 1 患者とのコミュニケーション(受容)について:精読 1 6. ①Practices in Nursing Communication 2 患者とのコミュニケーション(受容)について:精読 2 ② How to Fill in a Registration Form 日本語が読めない患者に登録記入を手伝う:会話 7. ①Disasters and Diseases 災害と看護:会話 ②Coronavirus Protection コロナウイルス予防対策:精読と会話 8. ①Expressions for Personal Cate(日常生活援助:会話) ②音のメカニズム2	授業形態は①全体授業、②個別授業、③グループ授業、④全体授業の順に進めます。	
使用テキスト	教科書は使用しません。資料は配布します。		
参考書			
評価基準方法	定期試験(筆記)		
備考・学生へのメッセージ	英語の辞書は用意してください(音声が見えるものが好ましいです)。 英語は使わないとすぐ忘れてしまいます。以前に習ったことも復習しつつ、粘り強く励みましょう。		

科目名	体育		
担当教員	黒田 裕太		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	体力を增強し、健全な身体発育を図るとともに、スポーツ実践を通して社会性や協調性を養う。		
到達目標	①自身の身体に興味・関心を持つ。 ②運動及びスポーツの良さを理解する。 ③運動およびスポーツを通じて心身の健康を良好に保つ。 ④運動およびスポーツを実施する習慣を形成する。		
授業概要	①トレーニング方法やストレッチといった、健康管理を実施する手段を実践する。 ②ラケットやボールなど道具を使用するスポーツを実施する。		
授業計画	内容		方法
	ストレッチおよびトレーニング 球技 ラケットスポーツ① ラケットスポーツ②		演習(実践) (15時間)
使用テキスト	なし		
参考書	なし		
評価基準方法	出席, 受講態度		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	カウンセリング理論と技法		
担当教員	加藤 尚子		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	カウンセリングの基礎理論を学びながら、演習を中心に行うことにより、医療の現場で役に立つカウンセリング技術を身につける。		
到達目標	・自己理解を深め、コミュニケーションやカウンセリングの基本的な知識を学ぶ。 ・相手の気持ちを理解しようとする積極的な姿勢で演習などに取り組む。 ・カウンセリング技法を実際に使えるようになる。		
授業概要	前半はテキスト等を使いながら演習を行い、カウンセリングに関する基本的な知識を学ぶ。後半はロールプレイでの演習を中心に、実際に医療現場で使えるカウンセリング技法を身につけていく。		
授業計画	内容・方法		
	1. カウンセリングとは カウンセラーの職業適性 自己開示 2. 自己を知る 文章完成法 人生の曲線・自分を取り巻く環境 (演習)オウム返し 3. 自他の価値観 (演習)自他の価値観 カウンセリングの歴史 レポート カウンセリングを行う上での倫理 4. ロールプレイの基礎 (演習)カウンセリング体験 心の構造 トラウマ・葛藤 フロイトの無意識 速さ・アクセント (演習)リフレーミング 5. カウンセリングの初歩技法 傾聴技法の学習 (演習)うなずきと相槌 (演習)繰り返し (演習)共感 等 Rogersの理論(来談者中心療法) 6. 事例による演習(U事例・K事例) (演習)コーチング (演習)敬語表現 7. ビデオ「信頼関係を結ぶ面接技術」 カウンセリングの初歩技法理論 8～15. カウンセリング演習 (実際に二人一組で15分程度の カウンセリングをする) テスト		
使用テキスト	看護のためのコミュニケーションと人間関係（中央法規）		
参考書			
評価基準方法	テストは全授業終了時に1回行う。 授業態度、ワークブック等の提出、演習での学習意欲などを元に総合的に行う。		
備考・学生へのメッセージ	カウンセリングを学ぶことによって、忙しい医療現場でも、丁寧に心を込めて話を聴く力を身に付けてほしいと思っています。みんなで楽しみながら学んでいきましょう。		



科目名	人間関係論(家族論含)		
担当教員	葛西 俊治		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	看護現場において、患者や家族、そして医療関係者との間での確で心の通う対人関係を実現するための基礎を学ぶ。		
到達目標	1 対人関係において、関わること・説明すること・お願いすること・断ることについて基礎的な事柄を理解する。 2 講義の解説を通じて、自身の対人関係の傾向を把握する。		
授業概要	配布プリントについて解説を行い、適宜、動画の視聴を含む。そうした学習内容についてレポートを作成して毎回提出する。		
授業計画	内容		方法
	主なテーマは次の通り 1 人間関係論と経営管理的アプローチ 2 社会的・個人的コミュニケーション 3 人間中心アプローチのカウンセリング 4 聞き取りと自己表現アサーション 5 対人関係の基本としての行動交換 6 患者-看護師の対人関係 7 人間的な基本欲求とマズローの動機理論 8 安全で安心な医療環境 9 リラクゼーションの身体心理 10 家族療法に見る「家族という問題」 11 家族内力動と家族療法 12 リラクゼーションの理論と実践 13 共笑いによる関係化とラポール 14 暗示と催眠に見る関係性 15 人間関係論のまとめと簡単な実習		講義・演習 (30時間)
使用テキスト	毎回プリントを配布する。		
参考書			
評価基準方法	講義内でショートレポートを提出し、その記述内容と理解の程度に基づく評価(90%)、授業での総合評価(10%)との合計で成績評価する。		
備考・学生へのメッセージ	講義では具体的な例を示すなどによりできるだけわかりやすく解説します。必要に応じた動画の視聴を通じて対人関係の実際について理解を深めてください。 *認定ダンスセラピスト(日本ダンス・セラピー協会会長)として、ダンスやムーブメントによるSST(ソーシャル・スキル・トレーニング)の要素を適宜、紹介します。		

科目名	リハビリテーション論		
担当教員	山口 隆誠(4時間) 菊地 佑那(4時間) 酒井 彩花(4時間) 菊地 亜美子(3時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	リハビリテーションの意義と方法について学び、身体や精神の機能回復に向けて援助・技術を理解する。		
到達目標	1. リハビリテーションの定義・概念を理解する。 2. 身体や精神の機能回復に向けての援助技術を理解する。 3. リハビリテーション医療システムとチーム医療について理解する。 4. リハビリテーションにおける看護師の役割を理解できる。		
授業概要	教科書に沿った内容で進める。 資料とスライドを使いながら説明する。 看護援助に必要なトランスファーの技術の演習をする。		
授業計画	内容		方法 講義
	1. リハビリテーションの定義と概念 2. 障がい者の分類と構造 ICFによる障害分類 3. リハビリテーション医療システムとチーム医療 4. 運動器系の障害とリハビリテーション 廃用症候群を防ぐには 積極的リハビリテーションプログラム 運動の種類 5. 検査手技 筋収縮の比較 筋力増強の3大条件 間接可動域 MMT ブルンストロームテスト アンダーソン改訂基準 ADL評価 6. 中枢神経系の障害とリハビリテーション 中枢神経麻痺の診方 嚥下・言語障害のリハビリテーション 7. 呼吸・循環系障害とリハビリテーション 8. トランスファーの介助演習 車いす⇄ベッド 起き上がり 他動可動域訓練		演習
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況とテストで総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	人の生活と食事		
担当教員	川尻 有貴子		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	食事療法の意義と方法を学び、健康回復・保持・増進のための食事療法を行う際の基礎的知識・技術を養う。		
到達目標	1. 人間にとっての食生活の意義を理解する。 2. 栄養指導の過程での看護師の役割を理解する。 3. 食事療法について理解する。 4. 栄養管理における看護師の役割を理解できる。		
授業概要	教科書に沿った内容で進める。 資料とスライドを使いながら説明する。		
授業計画	内容		方法
	1. 栄養食事療法とは 1) 栄養食事療法の概要 2) 医療・福祉の場における栄養食事療法 2. 食事療法の実際 1) 病院食の分類と特徴 2) 栄養補給法 3. 症状・疾患をもつ患者の栄養食事療法 1) 呼吸器疾患患者の栄養食事療法 2) 循環器疾患患者の栄養食事療法 3) 消化器疾患患者の栄養食事療法 4) 腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法 5) 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 6) 血液疾患患者の栄養食事療法 7) 精神・神経疾患患者の栄養食事療法 8) 褥瘡の栄養食事療法 9) 術前・術後の栄養管理 10) 更年期・高齢者の栄養食事療法		講義 (30時間)
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況・講義終了後のペーパーテストで総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	社会福祉(社会保障含)		
担当教員	中村 潮音		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	医療・看護の隣接領域である社会福祉について、概念や枠組みなどの社会援助の全体像の全体像の理解および施策、制度およびサービスについて具体的に理解する。また、社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の視点、方法について学び、医療・看護との連携についても理解を深める。		
到達目標	1. 社会保障、社会福祉制度の役割を述べることができる。 2. 社会福祉の歴史的背景と現代社会の変化を述べることができる。 3. 社会福祉援助の視点と方法について述べることができる。		
授業概要	社会福祉は、医療や看護と密接に関わり、私達が安心して暮らすためになくてはならないものです。 本授業では、社会福祉の歴史や現代社会の変化を踏まえ、現在整備されている様々な福祉制度についても学びます。また、社会福祉援助を必要とする対象者について理解し、援助方法についても学びます。社会福祉の基本的な考え方や仕組みが生まれた社会経済的な背景、現代社会においていかに必要不可欠なものであるか理解を深めます。		
授業計画	内容		方法
	1 オリエンテーション(講義展開、評価方法等) 社会福祉全体像の理解 2 日本の社会福祉の歴史 3 現代社会の変化 人口構造と社会的な問題 4 生活を支える社会保障制度 日本の社会保障の仕組み、社会福祉法制度 5 貧困・低所得問題と福祉 生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、低所得対策 6 所得保障制度 年金、社会手当、近年の動向 7 医療保障制度 健康保険制度と国民健康保険、医療制度改革 8 高齢者福祉と介護保障1 高齢者福祉諸制度と介護保険制度の創設 9 高齢者福祉と介護保障2 介護保険制度の概要及び課題と展望 10 障害者福祉 障害者総合支援法、障害者の暮らし 11 児童家庭福祉 児童を取り巻く環境と制度、近年の動向 12 地域福祉と支え合い 地域福祉とは、近年の動向 13 社会福祉援助 社会福祉専門職の援助と社会福祉援助技術 14 医療と社会福祉の連携 地域包括ケアシステム、医療ソーシャルワーカー 15 欧米における社会福祉の歴史 イギリス、アメリカなど欧米諸国の社会福祉 16 テスト		講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎 社会保障 社会福祉 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	筆記試験 80%, 出席状況 15%, 授業参加態度及び小レポート(リアクション)も加味する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	総合医療論		
担当教員	高橋 典彦(16時間) 鳥潟 卓美・秋田佳祐・深坂 謙志朗(14時間)		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	医療を総合的な立場から理解するために、最近の臨床現場で重要視されている様々な問題について、トピックスとして取り上げ学習する。 社会福祉と医療の連携、相互支援、当事者、地域住民との協働について学習する。		
到達目標	医療を取り巻く現状と諸課題について学び、医療従事者の一員としての倫理観を養う。 社会保障制度について学び、社会資源を活用する際の基礎的知識を養う。 社会福祉と医療・看護の連携についてソーシャルワーカーの業務を通して学ぶ。		
授業概要			
授業計画	内容		方法 講義 (30時間)
	≪高橋講師≫ 1. 現代医療について 現在、行われている医療について、大腸外科を中心に解説したい。 2. 移植医療について 脳死をテーマに人の死に対する理解を深め、臓器移植を含めた医療について考察する。 3. 死生学 医療者として死を身近な門のとしてとらえ、人がいかに生きるべきか、また死ぬべきかを安楽死の事例を通して考える。 4. 医療安全 「事故はおきるもの」であることを心にきざみ、より安全な医療の提供に努めることの重要性を学ぶ。 5. 滅菌と消毒 感染の伝播や拡大を防ぐために必要な清潔操作について知識を深めたい。 6. 保険医療 現在、日本で行われている保険医療について解説し、医療従事者が知っておくべきルールを学習する。 7. 統計学 医療の場面では、経験や勘にたよらず、科学的根拠のある情報に基づいてなされるべきであることを学ぶ。 8. まとめ これまでの講義の総括。 ≪鳥潟講師・秋田講師・深坂講師≫ 1. 医療ソーシャルワーク総論ー社会福祉士、精神保健福祉士の医療領域における役割と視点 2. 医療ソーシャルワーク各論 1) MSW業務～病院におけるソーシャルワーカーの役割、看護師とソーシャルワーカーとの連携 2) 援助技術の用い方～インテーク、アセスメント、自己決定の尊重、権利擁護 3) アディクション・アプローチ～アルコール依存症の事例を通し患者・家族への対応 4) 虐待・DVに関わる援助職の視点と実践～デートDV、性暴力のトピックスから 5) 障害者福祉ー精神保健福祉の歴史と最近の動向を学ぶ～当事者の体験から 6) コミュニティワーク～精神保健ボランティアの実践から当事者、専門職と地域住民との協働を考える		講義
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 総合医療論 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎 社会保障 社会福祉 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。 点数配分 高橋講師 50点 鳥潟講師・秋田講師・深坂講師 50点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	地域・在宅看護Ⅰ		
担当教員	樋口 秋緒(2時間) 小山 仁(2時間) 永森 克志(2時間) 長谷川 真弓(4時間) 三宅 由佳(4時間) 田中 幸子(4時間) 畠山 恵理(12時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	地域で暮らす人々への在宅看護や多職種連携の実際を理解する。		
到達目標	1. 訪問看護の役割と機能を理解する。 2. 訪問看護での実践・記録(訪問看護計画を含む)を説明できる。 3. 地域包括ケアシステムを理解する。 4. 地域包括支援センターの役割を理解する。 5. 在宅看護での多職種連携を知る。 6. 医療機関における入退院時の支援・連携を理解する。		
授業概要	この講義では、地域・在宅看護が必要とされる社会背景をふまえ、地域・在宅看護に関連する制度やシステムについて学びます。		
授業計画	内容		方法
	《永森講師》 1. 在宅看護での医師との連携 訪問診療とは 《小山講師》 1. 地域包括ケアシステムとは 2. 地域包括支援センターの役割と機能 《長谷川講師》 1. 地域における医療機関の役割 2. 入退院支援と退院調整 《樋口講師》 1. 在宅看護と倫理 《三宅講師・田中講師》 1. 訪問看護ステーションの役割と機能 2. 在宅看護におけるケースマネジメント 3. 在宅看護における危機管理 4. 訪問看護計画書の作成 《畠山講師》 1～2. 在宅看護を取り巻く制度 3. 演習オリエンテーション 4・5. 発表資料作成 6. 発表		講義 講義 講義 講義 講義 講義・GW
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 (医学書院) 地域在宅看護の実際 地域・在宅看護論2 (医学書院)		
参考書	講義時に提示します		
評価基準方法	試験配点： 樋口講師 5% 永森講師 5% 小山講師 5% 長谷川講師 15% 三宅講師・田中講師 30% 畠山講師 40%		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	地域・在宅看護Ⅱ		
担当教員	島田 啓志(2時間) 柴田 ひとみ(10時間) 中村 創(4時間) 大津 千恵(4時間) 三宅 由佳(4時間) 下道 寿恵(4時間) 田中 幸子(2時間)		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	健康障害をもちながら地域で生活している療養者とその家族に必要な看護を理解する。		
到達目標	1. さまざまな事例の療養者と家族状況に応じた看護の実践を理解する。 2. 在宅生活を継続するためのケアマネジメントの実際を理解する。		
授業概要	この講義では、在宅で生活している療養者の方に多い疾患の看護展開を学びます。それぞれの家族背景を知るとともに、訪問看護導入・援助技術・制度の活用について事例を通じて学びます。		
	内容	方法	
授業計画	《島田講師》 1. 在宅における終末期の支援と意思決定支援 《大津講師》 1. 外来看護と化学療法を受ける療養者の在宅看護 《三宅講師・下道講師・田中講師》 1. 在宅看護介入期別の特徴 1)パーキンソン病 2)ALS 3)COPD 4)心不全 5)小児 在宅療養の看護 《柴田講師》 1. 脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開 2. 認知症療養者に対する在宅看護の事例展開 3. 独居の療養者に対する在宅看護の事例展開 4. 終末期(がん)の療養者に対する在宅看護の事例展開 《中村講師》 1. 精神疾患の療養者の在宅看護 1)病院での精神科看護と訪問看護の違い 2)精神疾患の療養者とその家族への支援	講義	
		講義	
		講義	
		講義	
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 (医学書院) 地域在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 (医学書院)		
参考書	講義時に提示します。		
評価基準方法	試験配点: 島田講師 5点 柴田講師 40点 中村講師 10点 大津講師 10点 三宅講師・下道講師・田中講師 35点 出席状況及び試験で総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	地域・在宅看護Ⅲ		
担当教員	畠山 恵理		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	地域で生活している対象と家族に必要な在宅看護技術を学び、在宅看護の実践を理解する。		
到達目標	1. 地域・在宅看護における安全を守る看護について理解できる。 2. 療養者とその家族が在宅療養に必要な援助の方法を考えることができる。 3. 援助の実践をとらえて在宅療養者・家族の思いを表現することができる。 4. 地域の特徴を知り、課題を考えることができる。		
授業概要	看護援助を必要とする療養者に対して、安全委実施できるための方法と留意点を理解する。起こりうるトラブルとその対処方法を知り、予測すること、予防的ケアの重要性を理解する。		
授業計画	内容		方法
	1回目	地域・在宅看護の実践とは /生活機能のアセスメント 在宅看護におけるリスクマネジメント	講義
	2回目	在宅療養生活を支える看護 ① (食事、排泄、褥瘡の予防)	講義
	3回目	在宅療養生活を支える看護 ② (清潔・衣生活、活動と休息・ノーリフトケア)	講義
	4回目	主な治療に応じた看護① (薬物療法・人工呼吸療法)	講義
	5回目	主な治療に応じた看護② (人工的水分・栄養補給法)	講義
	6回目	在宅療養生活を支える看護 ③ (訪問の基本姿勢・コミュニケーション)	講義・演習
	7回目	訪問看護における看護技術の演習 (演習オリエンテーション)	GW・演習
	8回目	演習手順作成(7・8回)	GW・演習
	9回目	演習準備(リハーサル・手順修正)	演習
	10回目	訪問看護演習①(10・11回)	演習
	11回目		演習
	12回目	訪問看護演習②(12・13回)	演習
	13回目		演習
	14回目	演習まとめ	GW・演習
	15回目	演習の学び発表会	GW・演習
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 (医学書院) 地域在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 (医学書院)		
参考書	講義時に提示します。		
評価基準方法	成績評価は参加状況、筆記試験、提出物をもとに総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	成人看護Ⅱ		
担当教員	廣岡 未咲(4時間) 山下 さおり(6時間) 太田 尚伸(2時間) 金澤 誠(2時間) 小池 千佳子(4時間) 西村 佳名子(6時間) 木内 尚子(4時間) 坂本 昌子(2時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	急性期・周手術期における対象と家族を理解し、急速な病状の変化に対応できる援助技術を学ぶ。 手術を受ける患者の特徴と看護を理解することができる。 救急看護の定義と特徴を学び、救急看護の場について理解を深めることができる。		
到達目標	1. 術前・術中・術後の看護を理解する。 2. 手術を受ける患者の看護を理解する。(胃切除術、膵胆管系、肝切除、大腸(直腸含む)、肺) 3. 生命危機的状況にある患者の看護を理解する。(心筋梗塞、熱傷など)		
授業概要	周手術期看護では、基礎知識を使って理解を深めます。		
授業計画	内容		方法
	《山下講師》 1. 周手術期について、日帰り手術について 2. 術前の具体的援助、外来看護の役割(手術による身体侵襲) 3. 手術中の身体侵襲		講義
	《太田講師》 4. 手術後の看護(術後合併症と発症時の対応、手術による身体侵襲)		講義
	《金澤講師》 5. 心臓手術(心臓手術の周手術期看護、冠動脈バイパス術、大血管再建術、補助循環装置)		講義
	《坂本講師》 ・ 手術中の看護の要点 ・ 手術室における看護の展開		講義
	《木内講師》 ・ 人工肛門を造設する患者の看護 1回目 手術前の看護—身体的・社会的・心理的アセスメント、看護の実際 手術後の看護—手術後の身体的・心理的ケア・ストマ造設後の看護の実際		講義
	2回目 演習： 装具交換の実技演習 方法：1. 装具交換のデモンstrーション 2. グループに分かれて、ストーマ模型を使用し実際にパウチ交換を行う		演習
	《小池講師》 1. 救急看護 ・救急看護の定義 ・救急看護の役割 ・救急看護の求められるもの 2. 救急医療体制 3. 救急看護の場 4. 救急看護における法律と倫理 5. 救急看護を受ける患者の特徴、病態に伴う特徴、治療に伴う特徴、 患者・家族の心理社会的特徴、観察とアセスメント 6. 熱傷患者の看護		講義
	《西村講師》 ・ 開腹術を受ける患者の看護 ・ 腹腔鏡手術を受ける患者の看護(食道・胃、十二指腸・肝・胆のう、胆道・膵臓・脾臓) ・ 肺切除術を受ける患者の看護		講義
	《廣岡講師》 ・ 呼吸管理(バッグバルブマスクを使用した人工呼吸) ・【演習】気管内挿管の患者の観察と呼吸管理、開放式気管内吸引		演習
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院) 系統看護学講座 別巻 救急看護学(医学書院)		
参考書	はじめてのドレーン管理 清水潤三 (メディカ出版) 周手術期看護 安全・安楽な看護の実践 中村美和子(監)(インターメディカ)		
評価基準方法	評価配点：廣岡講師 15点 山下講師 20点 太田講師 5点 金澤講師 5点 木内講師 15点 小池講師 15点 坂本講師 5点 西村講師 20点 成績評価は参加状況、筆記試験、提出物をもとに総合的に行う。		
備考・学生へのメッセージ	必ず、予習復習をして授業に参加してください。		

科目名	成人看護Ⅲ		
担当教員	佐藤 かをり(10時間) 山田 恵美子(4時間) 川田 寿々奈(8時間) 濱本 泉(8時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	リハビリテーションが必要な対象と家族を理解し、日常生活動作の拡大と社会復帰にむけた援助方法を学ぶ。 手術侵襲からの順調な回復を促すための看護方法、および患者のセルフケアを促進するための看護を理解する。		
到達目標	リハビリテーション看護の考え方を理解できる。 経過別のリハビリテーションを理解できる。 リハビリテーションが必要な人への看護援助を理解できる。 リハビリテーションを必要とする患者・家族のアセスメントができる基礎知識を理解する。 地域生活への移行への看護を理解する。 脳血管疾患をもつ患者を看護できる基礎知識を理解する。 運動器疾患をもつ患者を看護できる基礎知識を理解する。 乳がんの手術を受ける患者を看護できる基礎知識を理解する。		
授業概要	講義の中でグループワークをしながら進めていきます。		
授業計画	内容		方法
	≪佐藤講師≫ 1. リハビリテーション看護の考え方 2. 経過別リハビリテーション 3. リハビリテーションを必要とする人への看護援助 4. 地域生活への移行支援		講義
	≪川田講師≫ 脳血管疾患を持つ患者の看護 1. 症状・障害をもつ患者の看護 2. 治療・処置を受ける患者の看護 3. 疾患をもつ患者の看護(脳梗塞患者の看護・パーキンソン病患者の看護・脳腫瘍患者の看護・クモ膜下出血患者の看護・下垂体腺腫の摘出術を受ける患者の看護・頭部外傷患者の看護)		講義
	≪濱本講師≫ 運動器疾患をもつ患者の看護 1. 援助のための主な知識と技術 2. 症状に対する看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 保存療法を受ける患者の看護 5. 手術を受ける患者の看護 6. 経過に応じた患者の看護 7. 疾患をもつ患者の看護(大腿骨頸部骨折患者の看護・腰椎椎間板ヘルニア患者の看護・脊椎損傷患者の看護・骨腫瘍患者の看護・腰痛を訴える患者の看護) ≪山田講師≫ 乳房の手術を受ける患者の看護 1. 手術を受ける患者の看護(術前・術後における問題と看護援助) 2. 乳房の手術後のリハビリテーション 3. ボディーイメージの受容・変形の受容を促すケア 4. リンパ浮腫のケア(リンパ浮腫のメカニズムと症状・セルフケア指導)		講義
使用テキスト	成人看護学 リハビリテーション看護論(ヌーヴェルヒロカワ) 系統看護学講座 専門分野 脳・神経 成人看護学7(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 運動器 成人看護学10(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院)		
参考書	講義時に提示します		
評価基準方法	成績評価は参加状況、筆記試験、提出物をもとに総合的に行う。 点数配分:佐藤講師 30点 川田講師 25点 濱本講師 25点 山田講師 20点		
備考・学生へのメッセージ	必ず、予習復習をして授業に参加してください。		

科目名	成人看護 IV		
担当教員	佐藤 香奈・竹内 純恵(22時間) 長尾 亜美(6時間) 外崎 みさき(2時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	終末期における対象・家族を理解し、その人らしい人生を送るための援助方法を学ぶ。		
到達目標	ターミナル期における症状のメカニズムとマネジメントを知ることができる。 ターミナル期のコミュニケーション技術・技法を知ることができる。 ターミナル期における家族・遺族のケアを知ることができる。 ターミナル期のケアについて知ることができる。 健康障害を持つ対象を理解し、健康の段階に応じた看護を展開する能力を養う。 がん化学療法の目的を理解するとともに、一般的副作用のポイントを理解する。 がん化学療法を受ける対象の理解と看護について理解を深める。		
授業概要	講義をしながら、グループワークで事例検討を行います。途中でクイズ形式も発問を挟みます。		
授業計画	内容		方法
	<<長尾講師>> 1. がん化学療法の基礎知識(目的と適応, 殺細胞性薬剤と分子標的治療薬) がん化学療法看護の原則 抗がん剤の安全な取扱い 2. 抗がん剤による副作用の症状マネジメント(骨髄抑制, 悪心・嘔吐, 皮膚障害) 3. 抗がん剤実施時の急性症状と看護 (過敏症状・インフュージョンリアクション, 血管外漏出) がん化学療法中の患者に対する支援 (セルフケア支援, 意思決定への支援, チーム医療)		講義
	<<外崎講師>> 1. 放射線療法を受ける患者の看護		講義
	<<佐藤講師・竹内講師>> 1. 緩和・ターミナル看護学の考え方 ターミナルケア・緩和ケアとは 死にまつわる文化 ターミナル期にある人の療養の場 (一般病床・ホスピス・在宅におけるターミナルケア) 死をめぐる倫理的課題 (真実を伝えること・意思決定・リビングウィル・安楽死と尊厳死・セデーション) 2. 終末期における家族・遺族のケア 3. 終末期にある意思決定 4. 終末期のコミュニケーション技術 5. 終末期ケアにおける様々な機能 6. 各種症状のメカニズムとマネジメント 7. ターミナル期にある人の特徴と理解 ターミナル期にある人の身体的特徴・ターミナル期にある人の心理的・社会的・霊的特徴(全人的苦痛の理解) ターミナル期にある人の死にゆくことに対する態度 ターミナル期における緩和ケア		講義
使用テキスト	成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 (ヌーヴェルヒロカワ) 系統看護学講座 別巻 がん看護学(医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する 点数配分:佐藤講師・竹内講師 75点 長尾講師 20点 外崎講師 5点		
備考・学生へのメッセージ	必ず、予習復習をして授業に参加してください。		

科目名	成人看護Ⅴ		
担当教員	林 美奈子・廣岡 未咲		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	周手術期看護における全身管理を理解できる。 模擬事例の看護過程を展開し、援助方法を考え実践できる。		
到達目標	1. 人工肛門造設術を受ける患者の事例展開し看護計画が立案できる。 2. 事例の模擬患者に必要な看護援助ができる。 3. 演習を通し、臨床判断ができる基礎的能力を養う。		
授業概要	術後1日目の事例を用いて、各自で看護過程を展開し、グループで模擬患者へ看護援助を行います。 グループワークの前に各自で学習準備が必要になります。		
授業計画	内容		方法
	第1回	オリエンテーション 事例課題提示・演習の進め方の説明 術後患者の観察とアセスメント(復習)	講義
	第2回	術後患者の援助	演習
	第3・4回	事例検討 グループで看護計画を立案 術後1日目の行動計画立案	グループワーク
	第5～7回	模擬患者の看護援助 模擬患者の全体像・看護計画・行動計画を 発表後、援助を実施	演習
	第8回	リフレクション	グループワーク
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)		
参考書	急性期実習に使える 周手術期看護ゼンブガイド(照林社)		
評価基準方法	*出席状況とグループへの協力状況とレポート提出及び内容をもとに総合的に行う。 点数配分:術後観察演習レポート 10点 模擬患者事例 60点 発表点 15点 演習終了時のレポート 15点		
備考・学生へのメッセージ	授業に参加できる準備、自己学習を行い、グループワークや演習に参加してください。		

科目名	老年看護Ⅰ		
担当教員	田崎 悌史(16時間) 大久保 抄織(8時間) 小林 亜希子(4時間) 松井 香織(2時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30 時間
科目のねらい	高齢者の生理的特徴や老年症候群を理解し、高齢者の疾患の特徴や症状に応じた看護について学ぶ。		
到達目標	1. 高齢者の生理的特徴や老年症候群について理解できる。 2. 高齢者の疾患の特徴や症状を理解できる。 3. 高齢者に特有な症状のアセスメントと援助について理解できる。 4. 認知症について理解できる。 5. 認知症がある高齢者の看護を理解できる。		
授業概要	人間の老化現象の生理的特徴や老年症候群について学びます。高齢者に特徴的な疾患や症状を理解し、看護するうえで留意すべき点について学びます。また、認知症の症状や検査、治療、看護について学びます。		
授業計画	内容		方法
	田崎医師 1. 高齢者の生理的特徴 2. 老年症候群 3. 高齢者の疾患の特徴 4. 高齢者と薬		講義
	小林講師 高齢者に特有な症状のアセスメントと看護 発熱・痛み・掻痒・脱水・浮腫など		講義
	大久保講師 1. 認知症とは、認知症の診断、認知症の症状 2. 四大認知症、認知症の治療と予防 3. 認知症高齢者のアセスメントの視点 4. 認知症がある高齢者の看護(かかわり) 5. 認知症ケアの倫理とみとり		講義
	松井講師 一般病床における認知症看護		講義
使用テキスト	系統看護学 専門分野 老年看護 病態・疾病論 (医学書院) 系統看護学 専門分野 老年看護学 (医学書院)		
参考書	講義の中で紹介します。		
評価基準方法	筆記試験と授業への参加状況をもとに総合的に評価します。 点数配分:田崎講師 50点 大久保講師 25点 小林講師 15点 松井講師 10点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	老年看護Ⅱ		
担当教員	今泉 萌泉(24時間) 北山 美保(6時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30 時間
科目のねらい	加齢変化や健康障害が日常生活におよぼす影響を理解し、高齢者の自立的な生活を支援するために必要な援助技術を学ぶ。		
到達目標	1. 高齢者の日常生活活動の特徴と援助について理解できる。 2. 高齢者の食事の意義について考え、高齢者に起こりやすい摂食・嚥下障害と栄養状態の変調、アセスメント、援助について理解できる。 3. 高齢者への口腔ケアの必要性を理解でき、安全安楽に留意した口腔ケアを実施できる。 4. 高齢者に起こりやすい排泄障害とアセスメント、基本的援助技術を理解する。 5. 加齢に伴う皮膚の変化と高齢者に起こりやすい皮膚トラブル、基本的援助技術を理解する。 6. 高齢者とのコミュニケーションについての基本的な考え方とその方法がわかる。 7. 褥瘡発生のメカニズムとケア方法がわかる。 8. フットケアの重要性とケア方法がわかる。		
授業概要	加齢変化や健康障害が日常生活におよぼす影響を理解し、高齢者が安全にその人らしく生活できるための援助について学びます。また、褥瘡発生のメカニズムとケアの方法と、フットケアの重要性とケア方法を学びます。		
授業計画	内容		方法
	今泉講師 1. 日常生活を支える基本的活動：高齢者の基本動作とアセスメント、転倒のアセスメントと看護、廃用症候群のアセスメントと看護 2. 高齢者の食事・食生活：食生活に注目する意義、高齢者に特徴的な変調、食生活と摂食・嚥下能力のアセスメント、栄養状態のアセスメント、食生活への看護 3. 高齢者の排泄：排泄ケアの基本姿勢、排泄障害のアセスメントと看護 4. 高齢者の清潔：清潔の意義、高齢者に特徴的な変調、清潔のアセスメントと看護 5. 高齢者の生活リズム：高齢者に特徴的な変調、生活リズムのアセスメントと看護 6. 高齢者のコミュニケーション：高齢者とのコミュニケーションの特徴とかかわり方、高齢者におけるしやすいコミュニケーション障害		1. 講義・演習 GW 2. 講義・演習 DVD学習 3. 講義 4. 講義 5. 講義 6. 講義 DVD学習
	北山講師 1. 褥瘡発生のメカニズム：リスクアセスメント(ブレーデンスケール、OHスケールなど) 褥瘡予防の実際のケア・創の評価分類(NPUAP分類)、症例を通して創の治癒過程を説明 2. 演習 創の洗浄方法の実技演習：1)洗浄方法を見学 2)グループに分かれて創の洗浄方法の実施 3. ギャッジアップ、背抜き、足抜き体験		講義・演習
	北山講師 1. フットケアの特徴を知る：1) 予防的フットケア 2) 治療的フットケア 2. フットケアのための基礎知識を知る：1) 足病変から治療まで 3. フットケアのためのアセスメント：1) 皮膚のバリア機能 2) 全身状態と生活状況のアセスメント 4. ケア方法：1) 爪のケア 2) 足病変のケア 5. 事例を通して考えるフットケア		講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)		
参考書	講義の中で紹介します。		
評価基準方法	筆記試験と課題提出、授業への参加状況をもとに総合的に評価します。 点数配分：今泉講師 75点 北山講師 25点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	老年看護Ⅲ		
担当教員	今泉 萌泉(11時間) 小泉 綾子(4時間)		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	高齢者の健康状態や受療状況に応じた看護について学ぶ。また、高齢者の特徴を理解した看護過程について学ぶ。		
到達目標	1. 検査を受ける高齢者の看護について理解できる。 2. 薬物療法を受ける高齢者の看護について理解できる。 3. リハビリテーションを受ける高齢者の看護について理解できる。 4. 高齢者におけるエンドオブライフケアについて考えることができる。 5. 介護保険施設における看護と、多職種との連携について理解できる。 6. 高齢者の特徴を踏まえた看護過程の考え方がわかり、臨床判断能力を養うことができる。 7. 手術を受ける高齢者の看護について理解できる。		
授業概要	高齢者の健康状態や受療状況に応じた看護について学びます。また、高齢者の特徴をいかした看護過程について学び、臨床判断能力を養います。 手術を受ける高齢者に特有の痛みや睡眠障害、せん妄状態などの身体的・精神的課題を学びます。また、手術に伴う苦痛を軽減し周手術期を乗り越えられるための看護のケアについて学びます。		
授業計画	内容		方法
	今泉講師 1. 治療を必要とする高齢者への看護 1) 検査を受ける高齢者の看護 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 3) リハビリテーションを受ける高齢者の看護 4) 入院治療を受ける高齢者の看護 2. 保健医療福祉施設における看護 1) 介護保険施設で求められる看護 2) 多職種との連携 3. 高齢者におけるエンドオブライフケア 1) 高齢者の死生観 2) 高齢者の尊厳を守るための支援 3) 家族への支援 4. 高齢者の看護過程 1) 高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方 2) 事例の展開		1. 講義 2. 講義 3. 講義・GW 4. 講義・課題学習
	小泉講師 1. 老年看護の概要(老年看護の目標と役割 等) 2. 高齢者のアセスメント(身体に加齢変化とアセスメント, 身体症状とアセスメント) 3. 健康逸脱からの回復と周手術期を支える看護 (手術を受ける高齢者の看護として、周手術期における様々な起こりうる症状と看護ケアについて)		講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)		
参考書	講義の中で紹介します。		
評価基準方法	筆記試験と課題提出、授業(演習)への参加状況をもとに総合的に評価します。 点数配分: 今泉講師 80点 小泉講師 20点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	小児看護 I		
担当教員	熊木 美香		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	小児各期の成長・発達の特徴を理解し、健全な成長・発達を支援し、健康の保持増進をするために必要な援助について学ぶ。		
到達目標	1. 各発達段階にある健康な小児の成長・発達の特徴が理解できる。 2. 小児の日常生活の援助方法が理解できる。 3. 小児の基本的生活習慣の獲得過程と、それを促す援助について理解できる。 4. 小児の栄養の特徴について理解することができる。 5. 小児のフィジカルアセスメントの方法を理解し安全に実施できる。		
授業概要	この科目では、小児各期の成長・発達を理解した上で、子どもとその家族に対して、成長・発達に合わせた日常生活の援助、子どもの遊び・学習についての学習をします。また、小児の状態を理解するために、安全をふまえた小児看護技術を学ぶ内容とします。		
授業計画	内容		方法
	第1回 乳幼児の看護 1) 新生児の特徴と各機能の発達 2) 乳幼児の身体的特徴と各機能の発達		講義
	第2～6回 3) 基本的生活習慣獲得のための援助 栄養・排泄・睡眠・清潔・衣服・環境・安全・遊び 成長・発達への援助を考える		講義 グループワーク
	第7～8回 乳幼児とその家族への日常生活援助の実際		発表
	第9～10回 学童・思春期の看護 1) 学童・思春期の身体的特徴と各機能の発達 2) 学童・思春期の養育および看護 栄養・睡眠・清潔・安全・学習と遊び・性教育 成長・発達への援助を考える		講義・演習
	第10～11回 小児のアセスメント①小児の身体計測・バイタルサイン測定		講義・演習
	第12～15回 小児のアセスメント②幼児・幼児のフィジカルアセスメント プレパレーションの実際		講義・演習
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論/小児臨床看護総論(医学書院) 写真でわかる小児看護技術アドバンス		
参考書	こどものフィジカルアセスメント(金原出版)		
評価基準方法	授業への参加状況及びレポート等の提出物(20%)、筆記試験(80%)を合算し総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	小児看護Ⅱ		
担当教員	佐藤 俊哉(14時間) 村田 綾香(8時間) 田中 小百合(8時間)		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	小児に特徴的な疾病を理解し、健康障害が子どもや家族に与える影響について学ぶ。また、小児の疾病の経過や症状、検査・治療・処置を受ける小児に対する看護について学ぶ。		
到達目標	1. 小児期における主な疾患と検査・治療が理解できる。 2. 病気や入院が子どもや家族に与える影響について理解できる。 3. 小児期に多い特徴的な症状と看護について理解できる。 4. 検査・治療・処置を必要とする小児と家族の看護について理解できる。		
授業概要	この科目では、小児に特徴的な疾患・検査・治療について学びます。また、病気や入院が子どもと家族に与える影響について理解し、患児の疾患の経過や症状に応じた援助や検査・治療・処置に伴う看護を学ぶ内容とします。		
授業計画	内容		方法
	<<佐藤講師>> 1 新生児反射と新生児の疾患・発達障害・心の問題 2 消化器疾患・呼吸器疾患・循環器疾患・血液疾患 3 泌尿器疾患・神経疾患・内分泌疾患・代謝性疾患 4 アレルギー疾患・免疫疾患・中毒と救急 5 感染症分類と予防接種・学校感染症 6 特殊感染症・院内感染対策 7 漢方治療、データ <<村田講師>> 1 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 入院中の子どもと家族の看護 2 子どもにおける疾病の経過と看護 3.4 症状を示す子どもの看護① 機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・チアノーゼ・発熱・嘔吐・下痢・脱水 便秘・痙攣・意識障害・発疹 <<田中講師>> 1 外来を受診する子どもと家族の看護 在宅療養中の子どもと家族の看護 子どもの虐待と看護 2.3 検査・治療を受ける小児の看護 薬物動態・与薬(内服・座薬)・注射・輸液管理・骨髄穿刺・腰椎穿刺 抑制・採尿・経管栄養・吸引・酸素療法・一次救命処置・吸入・採血 4 事故・外傷と看護		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義・演習 講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学2 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学1 (医学書院) 写真でわかる 小児看護技術アドバンス (インターメディカ)		
参考書	講義の中で随時紹介します。		
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価します 試験配分 佐藤講師 50点 村田講師 25点 田中講師 25点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	母性看護Ⅰ		
担当教員	古堂 俊哉(10時間) 藤本 沙織(20時間)		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	妊産褥婦と新生児の正常・異常の経過及びその診断や管理方法について学ぶ。		
到達目標	1. 妊産褥婦と新生児の正常な身体的変化, 心理・社会的変化を理解できる。 2. ハイリスク及び異常妊娠の要因や診断, その対応を理解できる。 3. 異常分娩の要因や診断, その対応を理解できる。		
授業概要	この講義では, 妊婦・産婦・褥婦と新生児の正常経過や妊娠・分娩・産褥期に起きる異常について学びます。母性看護を展開するための基礎的知識を学ぶ内容とします。		
授業計画	内容		方法
	1. 正常な妊娠期の経過(藤本講師) 1) 妊娠期の身体的特性 2) 妊娠とその診断・健康診査・検査 3) 妊娠期の心理・社会的特性		講義
	2. 正常な分娩期の経過(藤本講師) 1) 分娩の3要素と分娩経過 2) 産婦の心理・社会的変化		講義
	3. 正常な産褥期の経過(藤本講師) 1) 産褥期の身体的・心理・社会的変化		講義
	4. 新生児の生理と機能(藤本講師) 1) 新生児の生理と機能, 子宮外生活への適応過程		講義
	5. 妊娠期の異常(古堂講師) 1) ハイリスク妊娠: 合併する全身疾患・妊娠期の感染症 2) 妊娠疾患: 妊娠悪阻, 妊娠高血圧症候群・血液不適合妊娠 3) 妊娠持続期間の異常: 流早産・過期妊娠・過期産 4) 多胎妊娠・子宮外妊娠・胞状奇胎		講義
	6. 分娩期の異常(古堂講師) 1) 産道・娩出力の異常 2) 胎児異常による分娩障害 3) 胎児付属物の異常 4) 分娩時の損傷 5) 産科処置と産科手術: 誘発分娩・会陰切開・吸引分娩・帝王切開		講義
	7. 産褥期の異常(古堂講師) 1) 子宮復古不全, 産褥熱		講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護各論母性看護② (医学書院)		
参考書	病気がみえるVol. 10産科第3版 (MEDIC MEDIA) アセスメントスキルを修得し質の高い周産期ケアを追求する母性看護学Ⅱ周産期各		
評価基準方法	筆記試験と講義参加状況をもとに総合的に評価する。 点数配分: 古堂講師 40点 藤本講師 60点		
備考・学生へのメッセージ	予習・復習をし講義に臨み, 基本的な知識を定着できるように努力しましょう。		

科目名	母性看護Ⅱ		
担当教員	家郷 恵利子(14時間) 藤本 沙織(16時間)		
配当年度	2年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	妊娠・分娩・産褥及び新生児の生理的変化をふまえ、対象とその家族に必要な看護を展開できる基礎的能力を養う。		
到達目標	1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児のアセスメントの視点について理解できる。 2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について理解できる。 3. 正常を逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について理解できる。 4. 家族に対する看護の必要性和その方法について理解できる。		
授業概要	妊娠・分娩・産褥及び新生児の看護の実際について学びます。		
授業計画	内容		方法
	1. 妊婦と家族の看護（藤本講師） 1) 妊婦・胎児の身体的健康状態のアセスメント 2) 日常生活に関するアセスメント 3) 保健指導：食生活・排泄・活動と休息・勤労・性生活・マイナー 4) 親になるための準備教育 5) ハイリスク妊婦（高年妊婦、若年妊婦、未婚・再婚妊婦妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、切迫流産・子宮外妊娠、多胎妊娠、合併症をもつ妊婦など）の看護		講義
	2. 産婦と家族の看護（家郷講師） 1) 産婦・胎児の健康状態のアセスメント 2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント 3) 安全分娩への看護・安楽な分娩への看護・出産が体験が肯定的になる看護・基本的ニーズに関する看護・家族発達を促す看護 4) 分娩期の看護の実際 5) 異常のある産婦の看護・帝王切開術を受ける産婦の看護・分娩時異常出血のある産婦の看護		講義
	3. 褥婦と家族の看護（家郷講師） 1) 褥婦のアセスメント 2) 褥婦と家族の看護 3) 施設退院後の看護 4) 子宮復古不全・産褥期の発熱・精神障害・異常のある褥婦の看護・育児困難さをかかえる母親への看護・児を亡くした褥婦・家族の看護		講義
	4. 新生児の看護（藤本講師） 1) 出生直後の看護・出産後から退院時までの看護・生後1か月健診に向けた退院時の看護 2) 新生児の異常と看護：新生児仮死・低出生体重児・高ビリルビン血症・ビタミンK欠乏性出血		講義・演習
	5. 母性看護過程について（藤本講師）		講義・演習
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護各論母性看護②（医学書院）		
参考書	病気がみえるVol. 10産科第3版（MEDIC MEDIA） アセスメントスキルを修得し質の高い周産期ケアを追求する母性看護学Ⅱ周産期各論（医歯薬出版株式会社）		
評価基準方法	筆記試験と講義・演習参加状況をもとに総合的に評価する。 点数配分：家郷講師 45点 藤本講師 55点		
備考・学生へのメッセージ	母性看護Ⅰで修得した知識をもとに授業を展開していきます。必ず予習・復習をして講義に臨んでください。		

科目名	精神看護Ⅰ		
担当教員	秋山 久 澤田 浩美 日下部 聖樹 横山 健気		
配当年度	2年 前期	単位数・時間	1単位 30 時間
科目のねらい	生活の場における様々な精神保健上の問題について理解し、健康な生活を維持するために必要な精神保健活動について学ぶ。 主な精神疾患や症状、精神障がいの特徴、治療について理解できる。		
到達目標	1. 精神疾患のあらわれ方、症状について理解できる。 2. 精神科ではどのような治療が行われているか理解できる。		
授業概要	生活の場における様々な精神保健上の問題について理解し、健康な生活を送るために必要な精神保健活動について学ぶ。 主な精神疾患や症状、精神障害の特徴、治療について理解する。		
授業計画	内容		方法
	1. 総論、疾病論、現代の日本人が置かれていた状況 2. 統合失調症 3. 気分障害(感情障害、そううつ病、うつ病) 4. てんかん、精神保健と言われた分野の総論 5. 認知症、症状精神病、老年期の問題 6. アルコールの問題、麻薬中毒など 7. 神経症といわれていた病状、摂食障害、精神療法について 8. 精神遅滞、発達障害、発達の諸段階から中年期までの問題 9. 精神障害の治療について、抗精神薬などの説明 10. 精神医学の歴史、重要な法律、社会状況など		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学1(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学2(医学書院)		
参考書	学生のための精神看護学(医学書院)		
評価基準方法	筆記試験より評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	精神看護Ⅱ		
担当教員	中村 創(4時間) 大串 真紀子(8時間) 佐藤 かをり(18時間)		
配当年度	2年後期	単位数・時間	1単位 30 時間
科目のねらい	精神に障がいをもつ対象とその家族の生活を援助するための基礎的知識を学ぶ。		
到達目標	1. 様々な精神障がいの特徴が生活に及ぼす影響について理解できる。 2. 精神に障がいをもつ対象へのコミュニケーションについて理解できる。 3. 精神看護における倫理、権利擁護に基づいた、安全を守るためのリスクマネジメントについて理解できる。		
授業概要	・精神看護を必要としている対象への看護実践に必要な、知識、理論、技法を学習する。 ・精神に障がいをもつ対象とその家族との援助関係を築き、安全、安心できる治療環境での日常生活と回復を支える看護を学ぶ。		
授業計画	内容	方法	内容
	<大串講師> 1. 入院治療と治療的環境における看護 2. 行動制限と看護 3. 治療に伴う検査と看護 4. 精神症状・精神状態の理解と看護 <中村講師> リスクマネジメントの考え方と方法 精神科看護師の倫理、権利擁護	講義 講義 講義 講義 講義	<佐藤講師> 1. ケアの人間関係 2. 統合失調症の理解と看護 3. 気分障害の理解と看護 4. 神経症性障害、身体表現性障害、ストレス関連性障害の理解と看護 5. 物質関連障害、てんかんの理解と看護 6. 境界性パーソナリティの理解と看護 身体へのはたらきかけ(薬物療法と看護) 7. 患者・家族とサポートシステム
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学1 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学2 (医学書院) 学生のための精神看護学 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	筆記試験, 出席状況により総合的に評価する。 点数配分: 佐藤講師 50点 大串講師 35点 中村講師 15点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	研究の基礎		
担当教員	千葉 弘恵(16時間) 平山 佳苗(14時間)		
配当年度	2年 前期 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	看護学の発展に必要な看護研究の概要を学ぶ。 臨床実習での受け持ち患者を通してケーススタディをまとめることができる。		
到達目標	・看護研究を進めるプロセスがわかる。 ・文献検索の方法がわかる。 ・ケーススタディをまとめ発表できる。		
授業概要	・講義を通して看護研究を進めるプロセスを学びます。 ・文献検索とともに文献を読解しながら論理的思考を育みます。 ・成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ終了後に、臨地実習での受け持ち患者について、担当教員の指導を受けながらケーススタディを作成します。 ・抄録を作成した後、PowerPointを使い発表します。		
授業計画	内容		方法
	≪千葉講師 16時間≫ 1. 看護研究とは 2. リサーチクエスチョン 3. 文献レビューとその方法 4. 文献の種類と文献検索の方法 文献クリティーク 5. 研究デザイン(量的研究・質的研究) 6. 研究計画書について 7. 研究における倫理的配慮 8. 研究発表の方法とマナー ≪平山講師 14時間≫ 1. ケーススタディ作成にあたってのオリエンテーション 2. 担当教員の指導のもとケーススタディを作成 3. PowerPointを作成し発表 4. 講評を考え発表 5. ケーススタディ発表会の運営		講義 講義 演習 講義 講義 講義 講義 演習
使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究(医学書院) APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール(医学書院)		
参考書			
評価基準方法	試験配点 ≪千葉講師 60点≫ 千葉講師の講義終了後に、筆記試験を実施する。 筆記試験の6割(36点)に満たない場合には再試験とする。 ≪平山講師 40点≫ 下記を総合的に評価する。 ケーススタディに係わる取り組み ケーススタディ本原稿・抄録・PowerPointの提出 発表・講評 ケーススタディ発表会の運営 * ケーススタディの提出及び発表することを単位認定の必須とする。		
備考・学生へのメッセージ			